

令和6年度 大阪商業大学高等学校 学校評価

1. めざす学校像

□ 目指す学校・基本領域	
[1] 建学の理念に基づく学校づくり	(1) 建学の理念「世に役立つ人物の養成」の本校における今日的意義を探り、アイデンティティーを確立し、普遍的価値を持つ学校目標を定めた「スクールミッション」の下、教育活動を推進していく。 (2) 学校目標「スクールミッション」に沿い、教育方針を策定し、生徒、保護者、地域へ周知し、浸透を図る。特に年度当初に明確に提示し、学校評価と連動させる。
[2] コースの充実	コースポリシーの目標を基に、各コース委員会を中心に、学習指導要領に沿いながら、教育活動を具体化し推進する。これをアドミッションポリシーとして広報する。 (1) グローバル商大コースでは、スタディサプリを用いた低学力者への対応、また、進路意識が高い生徒への進路対策“まな部”を継続して行う。さらに、クラブ加入率を高め、各自の学習に柔軟に対応するため、土曜日の授業の扱いや生徒が自主的に学習する環境整備として自習室の運用について、検討を重ねる。なお、自習室の環境管理については、外部委託を中心に考える。また、国際社会の一員としての視点を育むことができるような取り組みとして、学園三校合同語学研修の実施に向けて校内でも情報を収集していく。 (2) 文理進学コースでは、新学習指導要領の下で、大学合格実績で成果をあげている希望進路別選択を継続実施していく。学習量・学習時間増加を柱として学習を定着させる指導に加え、学習への興味・関心を高めながら主体的に学び、探究心を養うプログラムを取り入れていく。前者については放課後授業、学期末授業、2次試験対策の補習の他、文理スタディキャンプなどの機会を設ける。後者では、内発的動機付けの醸成という観点から、OFIX英語体験などのイベントを行うとともに、2年目を迎える放課後探究活動の充実を図る。生徒の興味・関心に沿う学習活動を設定することは転・退学率の低下策としても有効であると考えられるため、内容をさらに充実させるために予算化し、教科担当者会議を定期的に開催し、常に到達度を意識する。また受験希望者増に繋がるコース独自の広報活動も検討する。 (3) デザイン美術コースは、進路対策としてグローバル商大コースと協働した進路対策“まな部”を継続して実施する。これらはコースの目標の一つである美術系国公立大学への進路対策としても有効であると考えられる。また、デッサン力の育成という基本的な方針に沿って、放課後授業については十分な効果が認められているため、継続しさらに効果的な運営を目指す。また、これらを専願受験希望者増に繋がる施策として広報活動を行う。それとともに神戸芸術工科大学との繋がりをさらに強化し、連携授業の継続を行っていく。 (4) スポーツ専修コースは、3クラス体制とする。コース生としての意識を高め、プライドを持つ指導を強化する。また、高学力者の進路選択の幅を広げるために国語・英語の取り出し授業を開始する。クラブ毎の授業である「スポーツ演習」を継続し、「総合的な探究の時間」において、幅広い知識を身に付けていく。また「簿記」や「スポーツ医学検定」などへの対策について準備していく。多忙化している顧問の働き方について検証を引き続きしていく。建設予定の新体育館や他の体育施設の効率的な利用方法も考えしていく。 (5) 2023年度より実施しているコース別修学旅行について、内容をコースポリシーと照らし合わせながら、充実を図る。

2. 中間的目標

□ 学習指導領域	
[1] 生徒の学習状況の把握と対応	(1) 教科会及び教科主任会を活性化し、各教科で定期考査後のデータ分析により学習状況の把握をし、以後の授業に反映する。1年間の授業を総括し、シラバスを見直し有効活用する。 (2) 主体的で対話的な学びに関して研究を深め、グループワークなどの導入を図る。教務部主催の“主体的に学び、成績アップのための授業研究会”の活動を支援するとともに、その成果を周知することで、全体的な改革の一助とする。 (3) スタディサプリを用いた学力不振者への入学後のリメディアル教育、定期考査前、考査後、長期休暇中の補習などによる学力補充の方策を検証し、継続して実施する。
[2] 教科教育活動の充実	(1) 授業内容を精選し、1時間1時間の授業を大切にする姿勢を教員・生徒とともに養う。しっかりと知識を身に付けることを大前提として、さらに自ら考える力を養うための授業を進めていく。国語力・読解力を養うことをすべての教科を通して意識する。また、各教科で「思考コード」の考え方を用いて定期試験の作成を行い、観点別評価を用いて生徒・保護者へのフィードバックを行う。 (2) 実用英語技能検定、簿記検定、ICTプロフィシエンシー検定(P検)など資格取得を前提とした指導を正規授業の中で積極的に進めていき、合格率向上を目指す。また、検定前補習を担当者任せではなく、学校全体の取り組みとするようシステム化する。 (3) 導入済みのスタディサプリについては、休暇時の課題や通常の授業の補完ツールとして活用することができているが、その使用状況を把握し、より積極的で組織的な活用を進める。 (4) 2023年度入学生から導入したタブレットの活用について、教科会を中心に効率的な使用方法を検討し、共有する。研修会などにも積極的に参加し、教科にフィードバックを行う。
□ 生活指導領域	
[1] 基本的生活習慣の確立、規範意識の育成	(1) スクールミッションに基づき、本校の理想とする「生徒像」を、行事、集会などを用いて機会がある毎に生徒に伝える。その継続的な指導によって「予防的」な生徒指導を目指す。また、学校外での問題事象が増えてきていることを踏まえ、自尊感情を持ち、自己肯定感を高めることで、行動に責任を持てるような働きかけを行う。 (2) 教職員全員で生活指導を行うという意識を徹底する。 (3) 生活指導週間に有効に活用し、校則遵守の徹底を図る。特に制服着こなしや頭髪指導に重点を置く。 (4) 目標値を掲げて取り組んでいる遅刻指導を継続的に実施するとともに、登下校指導を計画的に実施する。 (5) 美化意識を高め、大掃除などを通じて校内美化に努める。 (6) 主権者教育、消費者教育、性教育、自転車などの交通安全教育、薬物乱用防止教育など各種犯罪・事故に巻き込まれないための知識を学ぶ機会を設ける。
[2] 帰属意識の高揚	(1) 生徒自治会を中心に、体育祭、文化祭、校内大会などの行事を生徒の企画・運営で実施し、活性化する。外部体育館での体育祭については、継続して実施できるよう準備を進める。 (2) 学年や生徒自治会活動を中心にHR活動の充実を図る。 (3) クラブ活動の活性化のため、生徒自治会を中心にクラブ加入率を高める活動を行う。
[3] 特別支援教育の充実、不登校生対策の強化・改善	(1) 保健委員会を中心に不登校生徒、特性を持った生徒、また健康上留意しなければならない生徒への理解と対応を進めていく。さらに、1学期に身体的に問題を抱えた生徒の情報交換会を実施する。また、アンガーマネジメントやコーチングといった手法についても研究していく。 (2) 不登校生徒に関する教務内規に沿い、不登校生徒の早期発見に注力し、サポートルームを活用しつつ対応する。 (3) 特別支援教育理解のために啓発活動を行うとともに、特別支援教育コーディネーターを置き、対象者の支援計画を立案できるような体制作りを進める。また、対象生徒の中学生時の支援計画を参考に、継続的な指導ができるように中学校との連携を強化する。 (4) 人権意識を高めさせるために、総合的な探究の時間やHRを有効利用する。
□ 進路指導領域	
[1] 進路意識の高揚と進路実績の向上	(1) 3年間を通して計画的・体系的に進路指導を行い、適切な情報提供をすることで、進路に対する目的意識を形成するとともに学習への意欲を高める。社会的に広い視野を持たせるため、また自己表現のベースとして、国語力・読解力の強化をすべての教科の学習を通じて行う。

- (2) 文理進学コースの生徒、“まな部”で意欲的に取り組んでいる生徒を中心に、大学入学共通テストや一般選抜受験を奨励し、国公立大学及び難関私立大学への進学意欲を高め、合格者数を増やす取り組みを行う。
- (3) 就職や公務員試験受験を含め、多様な進路選択に対応できるような指導体制を構築する。
- (4) 大学入学共通テストについて分析を行い、該当教科、進路指導部、コース会議を中心に対応を進める。また、「情報Ⅰ」については引き続き情報収集に努め迅速に対応できるような体制をつくる。

[2] 系列大学との連携強化

- (1) 1年次より系列大学で学ぶことの意義を伝えて、系列大学の魅力を浸透させるなど、3年間を通じて体系的な進路指導を行う。
- (2) デザイン美術コースを中心として、神戸芸術工科大学との連携強化を引き続き図る。教員を招いての授業や夏季休暇を利用した大学での授業等は継続していく。さらに、保護者対象の神戸芸術工科大学見学ツアーなどを企画し、受験先として選択されるための一助とする。

□入試・渉外領域

[1] 広報活動の強化

- (1) 全教員で募集活動を行うという意識を持つ。
- (2) 東大阪市、八尾市、大阪市など地元を中心に、中学校への渉外活動を重点的に実施する。アスリート推薦での訪問を活かし、広範囲で本校を周知する活動を行う。
- (3) 中学校への出前授業については、広報活動の一環として捉え、積極的に引き受ける。
- (4) 学習塾への訪問回数を増加し、広報活動に努める。学習塾対象説明会のみならず、塾を訪問しての説明会を提案する。
- (5) 学校案内(パンフレット)作成にあたり、業者との連携を重ね、本校のアピールしたい内容を着実に伝えることのできるものをつくる。
- (6) 本校でのオープンスクール、入試説明会を全教職員で取り組み、生徒の参加や協力も得ながら内容をさらに充実させる。
- (7) 行事やクラブ活動など本校の情報を積極的に発信し、ホームページの更新頻度を高めていく。またSNSを利用した広報活動の検討も行う。
- (8) WEB出願は継続して実施する。合否発表(対受験生及び対中学校)システムも導入し、今後入学手続きのWEB化についても検討する。

[2] 専願受験者の確保

- (1) コースポリシーに沿った教育活動を明確にし、専願志願者増を目指す。グローバル商大コース 200名、文理進学コース 25名、スポーツ専修コース 100名、デザイン美術コース 25名計 350名の専願受験者を目指す。
- (2) 充実した特待生制度について広報を強化するとともに、中学校へ丁寧に説明することで理解を得るようにする。
- (3) 文理進学コースでは、大学合格実績や生徒の進路希望に対応した細やかなカリキュラムの魅力を伝える。文理進学コース独自の広報活動も策定する。
- (4) 充実した芸術Ⅰ教室、放課後デッサン指導や学習指導、また、アドバンテージである神戸芸術工科大学との連携を強く打ち出すことでデザイン美術コースへの専願志願者を増加させる。また、デッサン講習会において、優秀な結果を出した生徒を把握し、その出身中学校へ本校美術教員が訪問するなどの直接的なアプローチを行う。

[3] 女子生徒の確保

- (1) 共学校としての認知を受けるために志願者の45%、入学者の40%を目標に取り組む。
- (2) 人気のある制服の着こなしと魅力を伝える。女子生徒目線で変更した体育授業時のジャージや、サニタリーボックスを設置したトイレ、什器の入れ替えを行い明るい雰囲気となった食堂など、近年改善してきた点をアピールしていく。また、さらに女子生徒に魅力的な学校を目指して、明るいイメージの校舎・教室を目指して、改善に向けて努力していく。
- (3) 実績をあげている陸上競技部、柔道部などの女子生徒の活躍を紹介し、女子生徒に対する募集活動を強化していく。また空手道部を指定強化クラブとする検討を開始し、女子生徒対象のクラブ数を増やす。

□教員の研修・研究領域

[1] 教員の教育力向上

- (1) 時間講師も含めて全教員が行う公開授業(研究授業)を継続実施する。見学した教員の事後アンケートを教科担当者にフィードバックすることで、授業内容・方法の向上を図る。またICT機器を用いた教育実践の研究授業を適宜行う。
- (2) 校内研修会を実施し、教員の教育力向上を図るとともに意識統一を行う。教務部主催の放課後ミニ勉強会や常勤講師1年目対象の研修会は継続して実施する。
- (3) 外部研究会への積極的な参加を促す、または指名する。参加後に研修会や教科会で報告し、全体に情報が共有できるようにする。
- (4) 学校評価や授業評価の項目を、スクールミッションと連動できるように見直し、実施する。結果を基に授業を分析し、授業改善の指針とする。
- (5) 教科会を充実し、教科内での意見交換や止揚の場・教科教育力向上の場として活用する。

[2] 教員組織の活性化

- (1) 教育目標や課題を全教職員で共通認識し、該当分掌を中心に教員相互で助け合える組織を継続する。
- (2) 学校施策や行事において責任の所在を明確にし、企画・運営していく体制づくりを行う。そのために運営委員会、校務分掌会議、コース運営会議、学年会、教科会などが機能的に働くようにする。また、目的に沿った総括を行う。

□その他の領域

[1] 保護者との連携強化

- (1) PTA活動へ教員全体で参画・協力する。
- (2) 家庭で学業成績や学校生活の様子を把握してもらうために、1学期及び2学期の年2回、クラスで三者懇談を実施する。また、保護者対象に授業公開を実施し、学校・授業の様子を見ていただく機会とする。
- (3) さくら連絡網を家庭との連絡の手段として活用する。特に学校からの一方的な連絡に留まらず、欠席連絡やアンケート回収など保護者からの連絡ツールとしても有効利用する。
- (4) 就学支援金及び授業料支援補助金と授業料との相殺を継続して行い、家庭の負担軽減に努める。

[2] 地域との連携

- (1) クラブやコースを中心に東大阪市民ふれあい祭りなど地域行事へ参加・協力をする。また、文化祭など本校行事を近隣へ案内し、本校の様子を知っていただく一助とする。
- (2) 第三者評価委員会を設けるにあたり、近隣自治会などへ協力依頼を行う。

[3] 大阪商業大学附属幼稚園との連携

- (1) 本校デザイン美術コースの協力授業を継続して行い、連携を図っていく。
- (2) 運動会、避難訓練、夕涼み会などの幼稚園行事へ協力する。

【自己評価アンケートの結果と分析・学校評価委員会からの意見】

自己評価アンケートの結果と分析[令和6年12月実施分]	学校評価委員会からの意見
<p>□学校生活全般</p> <p>○「学校の雰囲気がよい」 肯定的回答(生徒 76%、保護者 84%、教員 62%) 参考)昨年度 (75) (85) (62)</p> <p>○「生徒はクラスが楽しいと感じている」 肯定的回答(生徒 90%、保護者 84%、教員 85%) 参考)昨年度 (89) (86) (84)</p> <p>○「さくら連絡網などによって、学校の情報は適切に伝えられている」 肯定的回答(生徒 92%、保護者 96%、教員 92%) 参考)昨年度 (92) (95) (88)</p> <p>【分析】 「学校の雰囲気について」の質問に対して、保護者は約 84%が肯定的な意見である。これは昨年度と大きな変化はない。生徒の肯定的な意見 76%であり昨年度と大きな変化はない。教員は 62%と昨年度同様の数字であり、ここ数年肯定的意見が減少傾向であったが、一旦この傾向が止まっている。 「あいさつに溢れる学校」については、例年通り、生徒ならびに保護者は、70%を超える肯定的意見である。一方、教員は約 50%以上が否定的な回答となっている。教員の否定的な回答は昨年度より上昇している。クラブ員を中心とした校内での挨拶習慣が定着していると評価できるが、生徒全般にはまだ行き渡っていないと評価できる。 「クラス活動」については、各学年ともに肯定的な回答が約 90%であることは高い評価ができる。ここ数年続けて同じような高い水準を保っており、各学級担任の日頃の教育活動の賜物である。今後も生徒と学級担任、また学年教員団が協力して、クラス・学年全体の雰囲気を良好なものにし続けなければならない。 「さくら連絡網」については、生徒、保護者、教員すべてにおいて約 90%が肯定的回答となった。昨年度も高い水準であり、家庭と学校をつなぐツールとして認知されてきたと思われる。 「スクールミッション・コースポリシー」については、昨年度から加えた質問である。どちらの質問も、生徒、保護者は肯定的意見が 80%を超えており、また教員の肯定的意見も 60%を超えてきた。学校全体に学校・コースの方針が一定程度浸透していると評価できる。 「資格取得の多様性」については、生徒は肯定的回答が 80%を超え、昨年度同様の結果である。グローバル商大コースやスポーツ専修コースを中心に、生徒の満足度は高い。これに対して、保護者と教員の肯定的意見は依然として 60%台となっている。決して低い数字ではないが、保護者の満足度をあげる努力がさらに必要である。 「教員の教育熱心さ」については、例年通り、生徒、保護者ともに肯定的意見が 80%を超え、教員の肯定的回答は、70%程度である。ICT 授業、観点別評価等、新しい取り組みも少しずつ定着しており、教員の日々の取り組みが評価されていると言える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の雰囲気やクラス活動に対する質問に肯定的回答が多く、教育の成果があると言える。 ・クラスにはおとなしい生徒もいれば、明るい生徒もいる。分け隔てなく話せる雰囲気がクラスにある。 ・資格の取得は、生徒達の大きなモチベーションになっている。 ・チャレンジできる環境を作ってもらっている。 ・コースポリシーは、生徒達はそれなりに理解している。 ・「さくら連絡網」は助かるが、保護者側から伝えるツールがあれば。
<p>□学習に関して</p> <p>○「先生の授業はわかりやすい」 肯定的回答(生徒 85%、保護者 83%、教員 78%) 参考)昨年度 (87) (84) (77)</p> <p>○「(生徒は)意欲的に学習に取り組んでいる」 肯定的回答(生徒 88%、保護者 71%、教員 39%) 参考)昨年度 (87) (72) (36)</p> <p>【分析】 「授業のわかりやすさ」について、生徒間で各学年ともに約 80%台の肯定的な意見となり、ここ数年、変化がない結果である。保護者においてもほぼ同じような結果となっている。教員は肯定的回答が微増である。ICT授業の方法も教員同士で共有が進み、進化を遂げている。今後も「学び合い」の必要がある。 「授業への意欲的な取り組み」については、例年通り、生徒・保護者と比較して、教員の意見が厳しいものとなっている。ただし、ICT授業は進化しているが、教員による一方的な授業の場合、生徒が「意欲的」に取り組んでいることを評価しづらい側面もある。ICTを用いた授業方法の研究を進める一方で、評価方法の研究も必要である。 「ペル着を守っている」について、例年通り生徒は概ね肯定的な回答である。教員の肯定的回答は、減少している。引き続き、「ペル着」が学校全体で定着するよう指導の継続が必要である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTを使う先生もいれば、全く使わない先生もいるが、先生方はわかりやすい授業をしてくれている。 ・ICTは過渡期にあり、教員は試行錯誤をしながら授業の準備をしている。 ・研修会等で、ICTについて研鑽を重ねている。 ・「意欲的」という言葉の定義が、生徒と教員で乖離があるのでないか。教員による一方的な授業形態であれば、「意欲的」かどうかは評価しづらい。 ・「対話」や「議論」が授業の中にあればいいと思う。 ・授業見学を行ったが、面白くない授業だった。 ・大学では、授業について、改善を書くことになっている。

自己評価アンケートの結果と分析[令和6年12月実施分]	学校評価委員会からの意見
<p>□生活指導</p> <p>○「学校の規則は妥当か」 肯定的回答(生徒 73%、保護者 80%、教員 72%) 参考)昨年度 (69) (85) (70)</p> <p>○「学校の規則を守っているか」 肯定的回答(生徒 93%、保護者 73%、教員 22%) 参考)昨年度 (94) (79) (30)</p> <p>○「生徒は生活指導について納得している」 肯定的回答(生徒 73%、保護者 78%、教員 41%) 参考)昨年度 (73) (79) (37)</p> <p>○「自転車や歩行の交通ルールを守って登下校している」 肯定的回答(生徒 96%、保護者 92%、教員 30%) 参考)昨年度 (95) (94) (25)</p> <p>○「教員は悩みを親身になって聞いてくれる」 肯定的回答(生徒 87%、保護者 85%、教員 90%) 参考)昨年度 (88) (85) (91)</p> <p>【分析】 「学校の規則の妥当性」については、保護者においては肯定的意見が高い水準を保っており、また生徒の肯定的意見も微増している。引き続き、保護者の協力が得られやすい環境は整いつつあると評価できる。 「生徒が学校の規則を守っている」は例年と同じく、肯定的意見における生徒、保護者の数値と教員の数値に大きな差が生じておらず、教員の肯定的回答が昨年度より減少した。昨年度同様、規則を守っていない生徒に目が行きがちであるという評価であるが、引き続き、学校全体で取り組むべき課題である。 「生徒は生活指導に納得している」についても、肯定的意見が生徒、保護者の数値と教員の数値に大きな差が生じている。引き続き、校則、マナーを納得して守らせる、という指導が必要である。 「通学マナー」について、昨年度同様、生徒と保護者は肯定的回答が圧倒的に多く、その数値は 90% を超える。一方、教員は圧倒的に否定的回答が多く、意識が乖離している。今年度も、本校生の通学マナーの悪さについてのご連絡が何度も入った。一部の生徒とはいえ、マナーの悪い生徒がまだ目立つており、継続的に啓発、指導が必要である。 「教員は悩みを親身になって聞いてくれる」は三者(生徒・保護者・教員)ともに例年通り、肯定的回答が大部分を占めた。日々の丁寧な教育活動の成果であると評価できる。本校が培ってきた最も重要視すべき教育活動であり、今後も高い評価が得られるようにしなければならない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・クラスに 5, 6 人の否定的意見がある。 ・校則を守っていないのは一部の生徒だと思う。 ・「いじめ」に対する取り組みはどうなのか。 ・「生徒は学校の規則を守っている」について、多くの生徒が守っているつもりだが、教員とのギャップが大きい。
<p>□進路指導について</p> <p>○「授業・模擬試験が進路に対応している」 肯定的回答(生徒 86%、保護者 80%、教員 56%) 参考)昨年度 (87) (83) (67)</p> <p>○「進路の情報は適切に提供されている」 肯定的回答(生徒 90%、保護者 84%、教員 79%) 参考)昨年度 (91) (87) (82)</p> <p>【分析】 「授業・模擬試験の進路への対応」について、生徒・保護者の肯定的回答は 80% を超えるものとなったが、教員の肯定的意見は減少した。ここ数年、教員の肯定的意見は増加傾向だったので、来年の割合に注視したい。 「進路情報の提供」については、進路指導部を中心に、進路ガイダンスや総合的な探究の時間で、将来を考えさせる機会を提供しており、一定のフォーマットが出来たと言える。3 年生は 3 年連続で 90% の肯定的回答を得ている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・コースによって、進路に対する意識はかなり異なると思う。 ・文理進学コースは授業が大学進学に対応していて当然だが、グローバル商大コースは対応していない。
<p>□その他</p> <p>○「学校行事は楽しく充実している」 肯定的回答(生徒 90%、保護者 91%、教員 78%) 参考)昨年度 (88) (90) (79)</p> <p>○「部活動は活発で充実している」 肯定的回答(生徒 87%、保護者 87%、教員 77%) 参考)昨年度 (85) (92) (78)</p> <p>○「校内の施設・設備は整備されている」 肯定的回答(生徒 63%、保護者 68%、教員 21%) 参考)昨年度 (64) (72) (25)</p> <p>○「入学して(させて)よかったです」 肯定的回答(生徒 80%、保護者 87%、教員 71%) 参考)昨年度 (77) (87) (77)</p> <p>【分析】 「学校行事」について、全学年で肯定的回答が 90% に迫る水準である。体育祭・文化祭がコロナ以前の形態となり、また、体育祭が暑さ対策で体育館(Asueアリーナ)で実施できたことが、要因と思われる。 「部活動」についても、肯定的回答が多数を占めている。体育系はもちろんだが、文化部の活動も盛んになっている。同好会も部員を確保し、年間を通じて活動している。 「校内施設設備」については、例年通り否定的回答が他の項目よりも多い。新体育館の完成は令和 8 年 9 月末を予定しているが、更なる改善が必要である。 「入学して(させて)よかったです」については、概ね肯定的意見が多数を占めている。本校教員の日々の教育活動の賜物である。しかし、依然として、5 人に 1 人程度が「入学して良かった」とは思っておらず、この結果の原因を日々考える必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・特別なことがなくても、平凡な日常でいいと思う。 ・生徒会を中心に、生徒の意見を聞きだし、変えていけるところがあれば変えていきたい。 ・文化祭が通常通りの形式で開催できたのは良かった。 ・体育祭も、盛り上がってよかった。 ・学校行事は、生徒自治会の生徒、教員を中心にして、成功を収めたと言ってよい。 ・「肯定的意見」が多いのはいいことだ。

3. 本年度の取組内容および自己評価

中間的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価						
				◎-評価 80%以上 ○-評価 60% △-評価 40% ×-評価 20%以下						
□ 学習指導構想	<p>[1] 生徒の学習状況の把握と対応 (1) 教科会及び教科主任会を活性化し、各教科で定期考査後のデータ分析により学習状況の把握をし、以後の授業に反映する。1年間の授業を総括し、シラバスを見直し有効活用する。 (2) 主体的で対話的な学びに関して研究を深め、グループワークなどの導入を図る。教務部主催の“主体的に学び、成績アップのための授業研究会”の活動を支援するとともに、その成果を周知することで、全体的な改革の一助とする。 (3) スタディサプリを用いた学力不振者への入学後のリメディアル教育、定期考査前、考査後、長期休暇中の補習などによる学力補充の方策を検証し、継続して実施する。</p> <p>[2] 教科教育活動の充実 (1) 授業内容を精選し、1時間1時間の授業を大切にする姿勢を教員・生徒ともに養う。しっかりととした知識を身に付けることを大前提として、さらに自ら考える力を養うための授業を進めていく。国語力・読解力を養うことをすべての教科を通して意識する。また、各教科で「思考コード」の考え方を用いて定期試験の作成を行い、観点別評価を用いて生徒・保護者へのフィードバックを行う。 (2) 実用英語技能検定、簿記検定、ICTプロフィシエンシー検定(P検)など資格取得を前提とした指導を正規授業の中で積極的に進めていき、合格率向上を目指す。また、検定前補習を担当者任せではなく、学校全体の取り組みとするようシステム化する。 (3) 導入済みのスタディサプリについては、休暇時の課題や通常の授業の補完ツールとして活用することができているが、その使用状況を把握し、より積極的に組織的な活用を進める。 (4) 2023年度入学生から導入したタブレットの活用について、教科会を中心効率的な使用方法を検討し、共有する。研修会などにも積極的に参加し、教科にフィードバックを行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科定期試験などのデータ分析 ・学力不振者への学期末補習実施 ・学力テストデータを基にしたリメディアル教育の実施 ・業者学力テストの有効利用 ・ベル即授業→50分間授業提供の徹底 ・各教科での「思考コード」の考え方を用いての考査の評価を実施 ・授業態度調査の実施 ・各種検定合格率向上およびそれに向けての学校全体としての取り組み ・「まな部」の実施 	<p>各教科定期試験データ分析を教務部中心に行なった。教科会議においても議題とし、適切な成績評価につながるようにした。</p> <p>学力不振者に対して、リメディアル教育および各学期末に欠点者補習を行なったが、一部で怠学もあり、今後見直しが必要である。</p> <p>学力テストの事後指導をスタディサプリを活用して行なった。ホームルームの時間を用いて指導しているが、学力向上にまではつながっていない。</p> <p>ベル着の習慣がある程度定着しつつある。生徒と教員の認識には開きがあるので、今後も啓発が必要である。(肯定的意見 生徒:93%、教員:46%)</p> <p>問題作成時に思考力を問う問題を出題することについては概ね浸透してきた。今後さらに研鑽を重ね、研究を深める必要がある。</p> <p>授業への参加態度の生徒の個人差を把握するため、授業態度調査を行なった。</p> <p>◆◆各検定試験合格数について目標設定・評価◆◆</p> <table border="1"> <tr> <td>英検準2級→受験者数の55%合格</td> <td>・準2級合格→42名<受験204名> ---合格率21%(昨年度13%) ・2級合格→14名<受験102名> ---合格率14%(昨年度11%)</td> </tr> <tr> <td>全商簿記検定2級→合格</td> <td>・2級→合格66名<受験568名> ---合格率12%(昨年度15%)</td> </tr> <tr> <td>ICTプロフィシエンシ一検定(P検)の受験→3級合格</td> <td>P検→3級87合格名<受験118名> ---合格率74%(昨年度85%) →準2級合格者46名、<受験118名> ---合格率39%(昨年度48%)</td> </tr> </table> <p>※合格率が昨年度より減少している検定・級が多い結果となった。担当教員は多くの時間を指導にあてており、検定取得はグローバル商大コースの柱の一つとなっている。今後もコース・教科担当を中心に、粘り強く指導を続ける必要がある。</p> <p>「まな部」は、グローバル商大コース、デザイン美術コースの進学補習の位置づけとして実施</p> <p>3年生 国語7名 英語9名 (昨年度:国語9名、英語10名) 2年生 国語5名、英語6名 (昨年度:国語7名、英語11名) 参加人数は昨年度より減少している。特に、グローバル商大コースの参加生徒が減少している。</p>	英検準2級→受験者数の55%合格	・準2級合格→42名<受験204名> ---合格率21%(昨年度13%) ・2級合格→14名<受験102名> ---合格率14%(昨年度11%)	全商簿記検定2級→合格	・2級→合格66名<受験568名> ---合格率12%(昨年度15%)	ICTプロフィシエンシ一検定(P検)の受験→3級合格	P検→3級87合格名<受験118名> ---合格率74%(昨年度85%) →準2級合格者46名、<受験118名> ---合格率39%(昨年度48%)	<input checked="" type="radio"/> ○ <input type="radio"/> ○ <input type="radio"/> △ <input type="radio"/> ○ <input type="radio"/> ×
英検準2級→受験者数の55%合格	・準2級合格→42名<受験204名> ---合格率21%(昨年度13%) ・2級合格→14名<受験102名> ---合格率14%(昨年度11%)									
全商簿記検定2級→合格	・2級→合格66名<受験568名> ---合格率12%(昨年度15%)									
ICTプロフィシエンシ一検定(P検)の受験→3級合格	P検→3級87合格名<受験118名> ---合格率74%(昨年度85%) →準2級合格者46名、<受験118名> ---合格率39%(昨年度48%)									

□ 生 活 指 導 構 想	[1] 基本的生活習慣の確立、規範意識の育成	<ul style="list-style-type: none"> 通常の登下校指導だけでなく、教員全員で生活指導週間において登校指導を行う。 学年集会、コース集会などを通じて、マナー意識の徹底などを行う。 生徒の人権などを配慮した丁寧な指導を行う。 年間遅刻目標を 4,500 名以下とし、生徒指導部だけでなく、学年でも細やかな遅刻指導を行い、遅刻数減少への取り組みを行う。 生徒対象マナーや性教育などの講座の開催 スマホのマナー(朝礼～終礼時までの使用禁止、歩きスマホ、音だし等の禁止)に対して指導を行う。 生徒自治会を中心とした、各種学校行事への取り組み 	<p>教員全員による登校指導の実施</p> <p>学年集会、コース集会の実施</p> <p>学校全体の年間遅刻数を 4,500 名以下にする</p> <p>交通安全講習会・性教育の実施</p> <p>スマホマナーの徹底</p> <p>各種学校行事への取り組み</p> <p>課外活動の実績</p> <p>不登校生徒認定に関して新ルールの定着</p> <p>カウンセリング、不登校対策について</p>	<p>全教員による対人マナーや校則を遵守させるよう啓発に努めた。一定の効果は出ているが、服装指導は今後も必要である。</p> <p>今年度は学年集会、コース集会などを学年・コース主導で行った。</p> <p>年間遅刻数 5,359 名 <昨年度 5,908 名・昨年度 4,987 名> で目標数 4,500 名以下を達成することができなかったが、減少傾向にある。各学年、クラス担任はきめ細かい指導を続けていく。</p> <p>交通安全講習会は 1 学年を対象に、性教育は各学年で実施した。</p> <p>ある程度、学内に浸透しているが、マナー違反は、まだ見られる。</p> <p>各種行事を、予定通り開催できた。特に、体育祭は昨年度に引き続き、外部の体育館を借りて実施した。生徒の満足度も年々上がっている。(生徒肯定的回答 今年度 90% 昨年度 88% 一昨年度 84%)</p> <p>柔道部・パワーリフティング同好会の全国大会での活躍、空手道部、陸上競技部の近畿大会での活躍があった。</p> <p>不登校認定の申請から認定までがスムーズになり、大きなトラブルなく実施されている。</p> <p>カウンセリング相談者数延べ人数は、152 名(昨年度 146 名、一昨年度 168 名)で、対象生徒数は 34 名、対象保護者数は 11 名(昨年度対象生徒 40 名、対象保護者数 14 名)であった。件数としてはほぼ横ばいである。まだまだ精神的に不安定な生徒、保護者が多くいるので、ケアを続ける必要があると思われる。</p>	<p>△</p> <p>◎</p> <p>×</p> <p>○</p> <p>△</p> <p>◎</p> <p>○</p> <p>○</p>
	[2] 帰属意識の高揚	<ul style="list-style-type: none"> 生徒自治会を中心に、体育祭、文化祭、校内大会などの行事を生徒の企画・運営で実施し、活性化する。外部体育館での体育祭については、継続して実施できるよう準備を進める。 学年や生徒自治会活動を中心にHR活動の充実を図る。 クラブ活動の活性化のため、生徒自治会を中心にクラブ加入率を高める活動を行う。 			
	[3] 特別支援教育の充実、不登校生対策の強化・改善	<ul style="list-style-type: none"> 保健委員会を中心に不登校生徒、特性を持った生徒、また健康上留意しなければならない生徒への理解と対応を進めていく。さらに、1 学期に身体的に問題を抱えた生徒の情報交換会を実施する。また、アンガーマネジメントやコーチングといった手法についても研究していく。 不登校生徒に関する教務内規に沿い、不登校生徒の早期発見に注力し、サポートルームを活用しつつ対応する。 特別支援教育理解のために啓発活動を行うとともに、特別支援教育コーディネーターを置き、対象者の支援計画を立案できるような体制作りを進める。また、対象生徒の中学校時の支援計画を参考に、継続的な指導ができるよう中学校との連携を強化する。 人権意識を高めさせるために、総合的な探究の時間やHRを有効利用する。 			

中間的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価	
				◎-評価 80%以上 ○-評価 60% △-評価 40% ×-評価 20%以下	
□ 進路指導構想	<p>[1] 進路意識の高揚と進路実績の向上</p> <p>(1) 3年間を通して計画的・体系的に進路指導を行い、適切な情報提供をすることで、進路に対する目的意識を形成するとともに学習への意欲を高める。社会的に広い視野を持たせるため、また自己表現のベースとして、国語力・読解力の強化をすべての教科の学習を通じて行う。</p> <p>(2) 文理進学コースの生徒、“まな部”で意欲的に取り組んでいる生徒を中心に、大学入学共通テストや一般選抜受験を奨励し、国公立大学及び難関私立大学への進学意欲を高め、合格者数を増やす取り組みを行う。</p> <p>(3) 就職や公務員試験受験を含め、多様な進路選択に対応できるような指導体制を構築する。</p> <p>(4) 大学入学共通テストについて分析を行い、該当教科、進路指導部、コース会議を中心に対応を進める。また、「情報Ⅰ」については引き続き情報収集に努め迅速に対応できるような体制をつくる。</p> <p>[2] 系列大学との連携強化</p> <p>(1) 1年次より系列大学で学ぶことの意義を伝えて、系列大学の魅力を浸透させるなど、3年間を通じて体系的な進路指導を行う。</p> <p>(2) デザイン美術コースを中心として、神戸芸術工科大学との連携強化を引き続き図る。教員を招いての授業や夏季休暇を利用した大学での授業等は継続していく。さらに、保護者対象の神戸芸術工科大学見学ツアーなどを企画し、受験先として選択されるための一助とする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学年ごとの年間進路学習の立案 	学年ごとに目標に応じた進路学習の計画・実施	進路希望調査を実施し、進路ガイダンスへつなげた。進路指導部が中心となり計画的に指導をしている。各コース独自の取り組みとの融合が課題である。	○
				◆進路実績向上への取り組み◆	
		<ul style="list-style-type: none"> ・文理進学コースをはじめとする進路実績の向上、大学入学共通テスト受験奨励 	大学入学共通テストへの受験奨励	試験受験者数は 32 名(昨年度:22 名)。9 名が国公立大学に合格した(昨年度:4 名)。※難関私大(関関同立・産近甲龍)への合格数は 110 名であった(昨年度:53 名)。	◎
		<ul style="list-style-type: none"> ・『大学入学共通テスト』に対する研究、情報提供 	大学入学共通テストに対する研究	多くの科目で全国平均点を下回っており、さらに対策が必要である。	△
		<ul style="list-style-type: none"> ・文理進学コース 3 学期特別授業の実施 	文理進学コース 3 学期特別授業の実施	学年末試験に追われることなく、大学入試に集中できる環境が整いつつある。一定の効果が出ている。	◎
		<ul style="list-style-type: none"> ・文理スタディキャンプ(BSC)の実施 	文理スタディキャンプ(BSC)の実施	OBの力も借りて、プログラムを組んだ。生徒たちの満足度も高い。	◎
		<ul style="list-style-type: none"> ・文理進学コースの内発的動機づけへの取り組みの検討 	文理シーキング・アクティビティ(BSA)の実施に向け	昨年度から始まった新たな取り組みで、徐々に軌道に乗り始める。	○
		<ul style="list-style-type: none"> ・多様な進路に対する指導体制構築 ・系列大学(大阪商業大学/神戸芸術工科大学)との連携強化 	系列大学への進学について 系列大学(大阪商業大学/神戸芸術工科大学)との連携強化	大阪商業大学 69 名(19.4%) 昨年度 54 名(16.5%) 神戸芸術工科大学 0 名 昨年度 4 名(1.2%) 神戸芸術工科大学に関しては、進学者 0 名となり、残念な結果であった。大学との連携をさらに密に取りながら、進路指導を実践してきた。大阪商業大学については、人数、割合とも増えたが、20%弱と割合はまだ少ないため引き続き、高大の連携を深めることが必要である。	△
			就職希望者について	求人者数も回復傾向にあり、就職希望者 21 名が全員内定をもらうことができた。タブレットを用いながらの指導も定着しつつある。	◎

中間的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価	
				◎-評価 80%以上 ○-評価 60%	△-評価 40% ×-評価 20%以下
□ 入試・涉外構想	<p>[1] 広報活動の強化</p> <p>(1) 全教員で募集活動を行うという意識を持つ。</p> <p>(2) 東大阪市、八尾市、大阪市など地元を中心に、中学校への渉外活動を重点的に実施する。アスリート推薦での訪問を活かし、広範囲で本校を周知する活動を行う。</p> <p>(3) 中学校への出前授業については、広報活動の一環として捉え、積極的に引き受ける。</p> <p>(4) 学習塾への訪問回数を増加し、広報活動に努める。学習塾対象説明会のみならず、塾を訪問しての説明会を提案する。</p> <p>(5) 学校案内(パンフレット)作成にあたり、業者との連携を重ね、本校のアピールしたい内容を着実に伝えることのできるものをつくる。</p> <p>(6) 本校でのオープンスクール、入試説明会を全教職員で取り組み、生徒の参加や協力も得ながら内容をさらに充実させる。</p> <p>(7) 行事やクラブ活動など本校の情報を積極的に発信し、ホームページの更新頻度を高めていく。またSNSを利用した広報活動の検討も行う。</p> <p>(8) WEB出願は継続して実施する。合否発表(対受験生及び対中学校)システムも導入し、今後入学手続きのWEB化についても検討する。</p> <p>[2] 専願受験者の確保</p> <p>(1) コースポリシーに沿った教育活動を明確にし、専願志願者増を目指す。グローバル商大コース 200 名、文理進学コース 25 名、スポーツ専修コース 100 名、デザイン美術コース 25 名 計 350 名の専願受験者を目指す。</p> <p>(2) 充実した特待生制度について広報を強化するとともに、中学校へ丁寧に説明することで理解を得るようにする。</p> <p>(3) 文理進学コースでは、大学合格実績や生徒の進路希望に対応した細やかなカリキュラムの魅力を伝える。文理進学コース独自の広報活動も策定する。</p> <p>(4) 充実した芸術Ⅰ教室、放課後デッサン指導や学習指導、また、アドバンテージである神戸芸術工科大学との連携を強く打ち出すことでデザイン美術コースへの専願志望者を増加させる。また、デッサン講習会において、優秀な結果を出した生徒を把握し、その出身中学校へ本校美術教員が訪問するなどの直接的なアプローチを行う。</p> <p>[3] 女子生徒の確保</p> <p>(1) 共学校としての認知を受けるために志願者の 45%、入学者の 40% を目標に取り組む。</p> <p>(2) 人気のある制服の着こなしと魅力を伝える。女子生徒目線で変更した体育授業時のジャージや、サニタリーポックスを設置したトイレ、什器の入れ替えを行い明るい雰囲気となった食堂など、近年改善してきた点をアピールしていく。また、さらに女子生徒に魅力的な学校を目指して、明るいイメージの校舎・教室を目指して、改善に向けて努力していく。</p> <p>(3) 実績をあげている陸上競技部、柔道部などの女子生徒の活躍を紹介し、女子生徒に対する募集活動を強化していく。また空手道部を指定強化クラブとする検討を開始し、女子生徒対象のクラブ数を増やす。</p>	<p>・基盤とする東大阪市、八尾市、大阪市、柏原市、生駒市、奈良市の中学校から安定した入学生徒数を確保する。そのため入試対策委員会と企画広報部が連携し、効果アップを図る。オープンスクールや入試説明会は全教職員で取り組む。</p> <p>・学習塾への広報活動強化</p> <p>・入試相談ウィークの実施</p> <p>・ネット出願の導入</p> <p>・中学校への出前授業積極的受入れ</p> <p>・ホームページを用いた迅速な情報発信</p> <p>・スポーツ専修コース 3 クラス編成</p>	<p>「オープンスクール」 「入試説明会」 「塾対象説明会」 その他各種説明会の参加人数からの検証</p> <p>「miraicompasの利用」 東大阪市、八尾市の中学校に訪問 企画広報部内の担当者による更新 アスリート推薦スカウティングについて 令和 7 年度入学試験の受験数</p>	<p><オープンスクール> ・第 1 回 488 名(昨年度:457 名) ・第 2 回 436 名(昨年度:408 名) ※計 924 名(昨年度:計 865 名) <入試説明会> 今年度は 3 回実施することができた。 1 回目:106 組、2 回目:141 組、3 回目:228 組(昨年度 135 組、124 組、210 組)</p> <p><塾対象説明会> 77 塾(昨年度 73 塾) 外部説明会に参加をしない方針の塾も多いなか、微増しており、塾担当の渉外担当教員の活動の成果である。</p> <p><入試相談ウィーク> 今年度も 12 月に実施した。35 組(昨年度 46 組)が参加した。組数は減少したが、個別相談形式であるため、きめ細やかな説明ができる。そのため、本校の魅力をより伝えやすく、直接受験につながることも多く、訪問者が増えるように内容を充実させる必要がある。</p> <p><塾訪問> 延べ訪問塾数は 1,200 塾(昨年度は 1,135 塾、昨年度 1,097 塾)と増えた。今年も専従の担当者を配置できたことが大きい。地元の東大阪市・八尾市などを中心に訪塾した。重点塾には管理職が同行した。</p> <p>WEB出願システム“miraicompas”が、定着しつつある。</p> <p>中学校への出前授業は 8 中学 13 講座。 (昨年度 6 中学 8 講座)</p> <p>企画広報部を中心に、学校行事やトピックなど可能な限りリアルタイムでホームページに掲載した。</p> <p>アスリート推薦での受験 105 名(昨年度 96 名) 今年度も 90 名前後を適正人数目標に渉外活動を行った。</p> <p>出願数 898 名(昨年度 976 名) ※女子の志願者割合 37.1% 専願 315 名(昨年度 320 名) 併願 583 名(昨年度 656 名) 入学数 354 名(昨年度 363 名) ※女子の入学者割合 33.8% 女子の志願者の割合は目標(40%)を達成できなかった。各コースの魅力をさらに伝える工夫をする必要がある。</p>	<p>◎</p> <p>◎</p> <p>○</p> <p>◎</p> <p>△</p>

中間的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価	
				◎-評価 80%以上	○-評価 60%
□ 教員の研修・研究構想	<p>[1] 教員の教育力向上 (1) 時間講師も含めて全教員が行う公開授業(研究授業)を継続実施する。見学した教員の事後アンケートを教科担当者にフィードバックすることで、授業内容・方法の向上を図る。またICT機器を用いた教育実践の研究授業を適宜行う。 (2) 校内研修会を実施し、教員の教育力向上を図るとともに意識統一を行う。教務部主催の放課後ミニ勉強会や常勤講師1年目対象の研修会は継続して実施する。 (3) 外部研究会への積極的な参加を促す、または指名する。参加後に研修会や教科会で報告し、全体に情報が共有できるようにする。 (4) 学校評価や授業評価の項目を、スクールミッションと連動できるように見直し、実施する。結果を基に授業を分析し、授業改善の指針とする。 (5) 教科会を充実し、教科内での意見交換や止揚の場・教科教育力向上の場として活用する。</p> <p>[2] 教員組織の活性化 (1) 教育目標や課題を全教職員で共通認識し、該当分掌を中心に教員相互で助け合える組織を継続する。 (2) 学校施策や行事において責任の所在を明確にし、企画・運営していく体制づくりを行う。そのために運営委員会、校務分掌会議、コース運営会議、学年会、教科会などが機能的に働くようにする。また、目的に沿った総括を行う。</p>	・公開授業の実施	全員が実施し、全員が授業を見学する。	年に2回に分けて、全教員が公開授業を行った。事後アンケートを実施し、各教員のスキルアップにつながっているが、授業を見学できていない教員もいるため、時期等の見直しも必要である。	○
		・校内研修(教務部・保健委員会)の実施	校内研修を継続的に行う	教務部主催の全体研修会は、「学校改革メンバー」による報告と、「組織論」についての講演会の内容で行った。ミニ勉強会を2回実施した。“主体的に学び、成績アップのための授業研究会”は1名13回実施した(昨年度16名13回)。	○
		・外部研修会への積極的参加	外部研修会への参加	日本私学教育研究所主催の研修会に延べ2名が参加した。現在の教育の課題や現状、他校の取り組みを知る良い機会となっている。	○
		・他校視察	他校への視察	探究活動等の視察のため数校訪問した。	○
		・授業アンケート等の活用	全教員による授業アンケートの実施	2学期中に授業アンケートの実施、レポートの提出を義務付けた。自身の授業を振り返る良い機会だが、未提出の教員も複数名いる。	△
		・教科会の充実	教科会議を通じての教授力向上	新学習指導要領での観点別評価について、教科内で議論することが多くなっている。同一科目の横並び教員の打ち合わせの場も多くなっており、コミュニケーションの機会は以前より多くなっている。	○
		・時間講師説明会の実施	年度始めに校長による説明会の実施	4月初旬に、全時間講師対象に学校方針の説明会を実施、理解を得た。	○
		・新学習指導要領に伴って導入された観点別評価の実施	教務部を中心とした観点別評価のシステム作り	新学習指導要領に伴って導入された観点別評価については、本校独自に作成したエクセルシートを用いて対応した。引き続き、評価方法について研究が必要である。	○
		・大学入学共通テストの研究	大学入学共通テストの研究および対応	文理進学コースを中心に大学入学共通テストの研究を各教科で行った。本校生徒も健闘しているが、全国平均まではまだ差がある。引き続き研究と指導が必要である。	△
		・ICT教育充実に向けての準備	ICT教室の有効利用	情報の授業をはじめ、各教科、放課後授業、クラブ活動での動画チェックやオンラインミーティングなどで積極的に利用されている。	○
		・クラブ指導の在り方についての検証	「スポーツ演習」の有効活用	スポーツ専修コース全学年「スポーツ演習」のコマをクラブ単位で実施した。今後継続していく中で、クラブ指導の在り方について検証できる。	○

中間的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価	
				◎-評価 80%以上 ○-評価 60%	△-評価 40% ×-評価 20%以下
□その他	<p>[1] 保護者との連携強化</p> <p>(1) PTA活動へ教員全体で参画・協力する。</p> <p>(2) 家庭で学業成績や学校生活の様子を把握してもらうために、1学期及び2学期の年2回、クラスで三者懇談を実施する。また、保護者対象に授業公開を実施し、学校・授業の様子を見ていただく機会とする。</p> <p>(3) さくら連絡網を家庭との連絡の手段として活用する。特に学校からの一方的な連絡に留まらず、欠席連絡やアンケート回収など保護者からの連絡ツールとしても有効利用する。</p> <p>(4) 就学支援金及び授業料支援補助金と授業料との相殺を継続して行い、家庭の負担軽減に努める。</p> <p>[2] 地域との連携</p> <p>(1) クラブやコースを中心に東大阪市民ふれあい祭りなど地域行事へ参加・協力をする。また、文化祭など本校行事を近隣へ案内し、本校の様子を知っていただく一助とする。</p> <p>(2) 第三者評価委員会を設けるにあたり、近隣自治会などへ協力依頼を行う。</p> <p>[3] 大阪商業大学附属幼稚園との連携</p> <p>(1) 本校デザイン美術コースの協力授業を継続して行い、連携を図っていく。</p> <p>(2) 運動会、避難訓練、夕涼み会などの幼稚園行事へ協力する。</p>	・中間試験結果の家庭への通知	さくら連絡網の活用	1学期・2学期の中間試験結果を生徒に成績表として配付し、各家庭にその旨をさくら連絡網で通知した。	◎
		・授業公開期間の設定	授業公開を告知し、積極的に参加を促す。	11月に期間を設けて行っているが、今年度もさくら連絡網を使って案内した。さくら連絡網で配信するようになってから見学者は増加した。	◎
		・三者懇談の実施	全クラスでの三者懇談の実施	1学期・2学期の年2回クラスで三者懇談を実施することで、家庭で学業成績や学校生活の様子を把握してもらうことができた。	◎
		・「さくら連絡網」の活用	「さくら連絡網」の活用	年度当初に登録をお願いすることで、ほぼ全家庭に登録していただいた。 欠席連絡や長期休みの前後における確認事項や各種行事の連絡など大変有効に活用されている。ただ、保護者から連絡しやすいツールにはなっておらず、改善が必要との声もある。	○
		・地域住民への協力依頼	ふれあい祭りへの参加	今年度は東大阪市民ふれあい祭りが実施され、デザイン美術コースがどんどん体験を行い、また吹奏楽部も出演した。	◎
		・学校評価委員会の開催	学校評価委員会の開催	学校評価委員会を開催し、様々な意見を聞くことができた。特に、自治会の方、生徒自治会役員の意見は大変参考になった。	◎
		・デザイン美術コースの活動	幼稚園との「協力授業」	デザイン美術コース2年生の幼稚園との『協力授業』を実施した。 また幼稚園での屋外行事(運動会、夕涼み会など)における本校グラウンドの使用にあたり、体育科およびグラウンド使用各クラブが調整、協力を行った。	◎